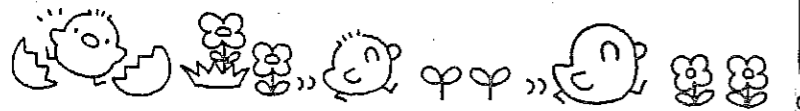


しいのみぐみ

おおきくな、たよ

入園当初はよちよち歩きやミルクを飲んで
いた子どもたちもぐ、と大きくなりました。
“こうしたい”という思いもどんどん出てきて
います。0歳は一番成長が著しい年齢
です。寝返りやハイハイができた、自分で
食べるようになった、歩くことができた...
と子どもたちの“初めて”を側で見守ってきました。
目に見えて出来るようになったこともありますが
泣いている友だちの頭をなでたり、気の合う
友だちの名前を呼び、友だち同士で後笑い
合ったり、お世話やお手伝いを喜んでしたり、
心の成長もたくさん感じています。成長の前には
葛藤があり、引、かいたり 噛んだり、泣いて
思いを表わす時もありました。ですが、毎日の
“やりたい” “おもしろい” “できた” が積み重
なる中で自信をつけてきた子どもたちです。
けんかをした時、思うようにいかなかった
時があっても “大丈夫” と伝えてきました。
自分の思いや木目手の思いに気付いていくことや
最後まで “自分で” の米占り強さ、安心して色んな
ことに興味を持って楽しむ気持ち、そんな
心の土台が育ってきたことを嬉しく思います。
しいの実ぐみでの生活もあとわずかとなり
ました。一日一日大切に過ごしていきたいと
思います。
一年間 ありがとうございます。



しいのみ・たんぽぽ・みずぐみだより

2020. 3. 27

円町まはね隣保園

寒さの中にも、少しずつ春の暖かい日差しが
感じられるようになりました。
この1年間で心身共に大きく成長した
子どもたちが来年度もさらに元気に 楽しく
過ごせるようにと 願っています。

たんぽぽぐみ

4月からたんぽぽ組の子どもたちと一緒に過ごす中で、大きく成長をしたなど
感じます。今では、着がえや手洗いなど “自分でする” と言って一生懸命足をスボ
ンから出してはこうしたり、石けんをつけて指の間や手の甲をゴシゴシと洗って水
で流したりしています。話もすくすく上りになり、月齢の大きい子どもの中には、休みの日に
“〇〇に行つたよ” と言ったり、友だちにおもちゃを貸してもらった時に “ありがとう” “〇〇ち
ゃん(くん)貸してくれた” と嬉しそうに話したりしています。月齢の小さい子どもが言ったこと
を真似したり、友だちの名前を言ったり、保育者がいつもしている遊びを自分なりにしたり
しています。今月は異年齢の子どもたちとたくさん交流しました。交流の中でいつも遊ん
でいるおもちゃの新しい遊び方を教えてもらっていました。あと少しのみず組になり
ますが、今のこの時を大事にして皆で楽しく過ごそうと思います。

お別れ会

19日にたいよう組の子どもたちのお別れ会がありました。たいよう組の子どもたちから
一人ひとりピエロや鉄棒、コマ、側転などの特技を見せてもらいます。たんぽぽ組の子
どもたちはすむいなど真剣に見て、一緒に拍手もしています。自分たちが作ったえんぴつ
立てをたいよう組の子どもたちに一人ずつ渡していきます。少し照れた顔をして渡す
子どもやさっと渡す子どもなど色々な姿がありました。いつも一緒に遊んでももらた
たいよう組の子どもたちが卒園していくのはとても寂しいですが、たんぽぽ組の子どもたちと一緒に
お別れ会の終わりに、退場をするので見送りました。

成長を見守って

自分でやりたいと思う気持ち、出来なかつたけれど出来るようになった時の顔、友だちの
真似をすることで自分の遊びが増えていきます。毎日の生活の中で電話で話す真似を
したり “いらっしゃいませ” と元気な声が聞こえたりしています。“ごっこ遊び” は想像力
やコミュニケーション力を育みます。身近な人やお店の人の真似をすることで言葉で話
して言葉のキャッチボールをして視野が広がることにも繋がったりします。今はまだ取
り合いが多いことがありますが、“ごっこ遊び” を通して皆と共有する楽しさも膨らませ
てほしいと思います。



みずぐみ

① たいよう組へプレゼント作り

卒園するたいよう組の子どもたちへ、お別れ
会で渡すプレゼント作りをしました。たいよう
組の集合写真が入った写真フレームを色々布
をペッチワークのように貼り合わせて、ボタンで
デコレーションしたものを作ります。“たいよう
さんよるこんでくゆるかほあ” “バイバイするの
さみしい” “おさんほもいっしょにいたよあ” “てきと
あかあさんにもみせたいなあ” と話して一生懸命
作っていた子どもたちです。
お別れ会当日、プレゼント渡しではドキドキ
して作ったプレゼントをたいよう組の子ども
たちに渡しています。“たいようさんありが
とう、てい、てい、” と嬉しそうに姿がありました。

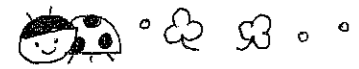
② みんがよであそぶってたのしからに

屋上や園庭へ出ると自然と追いかけることが
始まり、以前は保育者を誘って逃げたり
追いかけたり遊んでいました。最近では友だち
同士で鬼を決め、追いかける、こを楽しんだり
大好きな “てぶくろ” の絵本に出てくる動物に
なりきります。“トントン” “たれですか?” と
やりとりを楽しむ姿があります。子どもたち
同士でしか創り出せない世界で友だちと一緒に
遊ぶ楽しさを感じているように成長しました。

③ ともだちと

この時期の子どもたちは友だちに対する思いや
憧れをいっぱい持っています。友だちと一緒にだから楽しい
世界が沢山あります。また、自我が広がる時には、自分とは
違う存在である友だちが必要です。時にはぶつかり合っ
てけんかやトラブルも起こりますが、このぶつかり合いを
通して、より自分と相手のことを知っていきます。子どもの
発達に必要な関係は3つあります。“ちょっと背伸びをして
憧れの心を感じられる関係” “自分と同じ活動を共有したり、
ぶつかりあいたりする 対等の関係” “自分が導き手にとなり、遊びを
リードできる関係” です。基本となるのは 対等の関係で
あり、一緒に遊んで 楽しさを分かち合っているよう
見守っていきなさいです。

早いもので、今年度最終月となりました。
1年間、ご理解、ご協力いただきまして本当に
ありがとうございます。



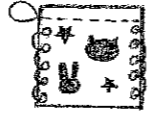
もちだより

★ プレゼント作り★

保育園やお散歩先の公園では木や花が芽吹き始め、色鮮やかには景色に変わりつつあります。季節はすっかり春ですね。

もうすぐ卒園を迎えるたいよう組の子どもたちに今までのありがとうの気持ちを込めて何かプレゼントをしようと話合いをみんなで行いました。学校に行っても使えるもの、おとし使ってもらえるもの...何が良いか色々と小悩んだ末に、巾着袋に決めました。フェルトを題材として巾着作りに取り組めます。

- ① フェルト選び → ② 模様作り → ③ かがり縫い → ④ 波縫い



工程は上記の通りです。模様作りをする時は、こういうイメージでせりたにいいね!! ほかほか上手く、思うように切ればいい...という姿がある中、"ううせ! フェルトにえをかくて、それからきつらいいんちや?"とある子どもの声があがり、それから周りの子どもたちも"いいかんがえだね!"とヒントをもらい進め始めます。形が出来て、ボンドで貼り付けていく時は"これかわいいね" "OO、こんばんつくとにぞ"と互いに見せ合い話をして楽しく作っています。模様作りが終わると、女子達は糸でかがり縫いや波縫いをしていきます。刺繍は初めてなので針は使わず、糸先にセロテープを巻いて縫いやまのようにします。穴を開けた戸を順番に通していきます。かがり縫いでは"下から上、キュー"と、波縫いでは"下から下、キュー、上から上、キュー"と言いつつ、集中して縫い進めています。途中、手頃が分からず糸がまっすぐに、穴を飛ばして縫っていたりと戸感う姿がちらほらありましたが、何度も何度もせり方を覚え、最後の穴まで丁寧に、そして集中して、通し糸通しています。

出来上がる嬉しくして互いのよい子どもたちです。誰にプレゼントしようかと、声がうるさいです。お別れ会当日を迎え、いよいよたいよう組の子どもたちに渡しにいくとすると、照れて、ほかほか前へ出られない姿もありましたが、みんなが渡すことが出来ました。

★ もちだより たいようだより★



"あとおかいねたら、たいようさん"ともちだより自分たちがたいよう組になることを楽しみにする子どもたちです。一年を振り返り、遊び方や思いの違い、ぶつかり合い、けんかをして泣くこともありました。楽しい事を繰り返して経験すること、友だちとの関係が深まってきました。グループでのあそびから、みんなが遊ぶことも増え、"おもしろいね!" "このいいね!"の思いをたくさん共有してきています。1つのあそびから、"こんばんせつておたにい!" "こうしたら、もてこのいいんじやない?"と子どもたちの思いを基に、あそびがながり、楽しんでいきます。

考え方や感じ方、思いや相手と自分とは違うということが分かってくる、集団の中で一人ひとりの個性を認め合い、相手の喜びや悲しみに共感できるよう心がけ育ちました。また、ありのままの自分で過ぎ、より良い仲間関係を築いていけるよう願っています。一年間、子どもたちと楽しい毎日を送り、これからの成長を楽しみにしています。ありがとうございました!!

クッキング ☆ かぜだより ☆

ここ毎月しているクッキングが子どもたちの楽しみひとつになっています。2月の終わりにクッキーを作りました。クッキーを作ることを知らせると"せつに!"と喜び子どもたちです。クッキングの前日には、スーパーまでバターを買いに行きます。スーパーに入る前に、"お店の中は静かにね。お店の中にあるものは触らないよ。"と約束を話します。すると、ビコビコが、シヤッと緊張したような様子です。おしゃべりしたい気持ちはいっぱい、心の声が小さな声となって漏れている子どももいます。約束を守ることに頑張るといいます。乳製品のコーナーにたどり着きバターを探して、買入しました。

お店の外に出ると、いっせいに話し出す子どもたちです。園に帰ると、職員室の冷蔵庫に入れておこうね、と話して帰ります。園の玄関に入る時、"れいせつに"といれといはあ、と子どもたちの熱い使命を受け、冷蔵庫に入れ、翌日を持ちます。

持ち帰ったクッキング当日です。排せ、エプロン、三角巾、手洗いを速やかにする子どもたちです。今回も3つのグループに分かれて作業しました。バターを溶かす器に混ぜ、小麦粉をみんながふるいにかけて、木べらで混ぜ、生地ができると等分にし、各々で好きな形にします。団子の形にする子ども、花に見える子ども、恐竜に見える子ども、イメージがわかなくて、しばらく考え込む子どもはさまざま。形にしたものを鉄板に乗せ、給食室まで、みんなが焼いてもらうよう、お原真い色しに行きます。そして、給食を食べて出来上がるのを待ちます。給食を食べ、"できたかあ?" "まだかあ?"と待ちわびています。保育者が給食室から、出来上がったクッキーを持ってくると、歓声が上がります。クッキーを食べたこと、給食を食べるペースも心ばかり普段より早いように感じます。中には、早く食べたこと、苦手なものをきれいに皿の隅に避けて"もうこれいらぬいから、クッキーちょうだい"と言う子どももいました。少し小麦粉が足りなくて、形が崩れてしまい、子どもたちがせっかくなった原型はほかほかのどろろが、それども子どもたちは大喜びで満足げに食べていました。友だちと"おいしいね"と確認し合って食べている姿が印象的でした。

- ☆作り方☆
- | | | |
|----|----------|------|
| 材料 | 薄力粉 | 30g |
| | 無塩バター | 150g |
| 道具 | ボウル | |
| | 泡立て器 | |
| | 木べら・ふるい | |
| | クッキングシート | |
| | 砂糖 | 120g |
| | 塩 | 少々 |

- ① 室温に戻した無塩バターを泡立て器でクリーム状になるまで混ぜる。
- ② ①に砂糖、塩を入れ更に混ぜる
- ③ 薄力粉をふるいにかけて、まとまりが出るまで木べらで混ぜる
- ④ 成形する
- ⑤ 170℃のオーブンで10分焼く
- ⑥ 完成

簡単にできる子どもたちと一緒に作って下さい。

もちだより かぜ組が終わろうとしています。乳児クラスから幼児クラスになり、新たな環境にドキドキしていた4月から、今では随分とお兄さん、お姉さんになりました。一人ができることも増え、手先も少しづつ器用になり、ハサミも使えるようになりました。何よりも友だちの存在を認め、ケンカをして、一緒に笑顔であそびようになりました。小集団であったのに、段々、大きな集団になっていき、同じあそびを共有できるようになり、大きく成長しました。これから、友だちとの関係が深まると共に、ケンカを繰り返して、様々な感情が芽生えると思われ、その中で友だち同士、互いに楽しいことを見つけ、遊びが広がり笑顔があふれる経験をしてほしいと願っています。

今年度も一年間 ありがとうございました。